

過去最高であった令和元年の一〇二名と比べても遜色ない数になっています。

この数年間は、新専門医制度の定着までの過渡期であり、医学生や研修医が、自らのキャリアパスや専門医へのロードマップを強く意識するのも当然と思われ

ます。上述の熊本県内の傾向もその表れの一つかもしれません。卒後研修の場を提供する側としても、研修医を取り巻くこのような状況を理解して、要望に応えていく必要があると思います。

令和二（二〇二〇）年度からは臨床研修制度も大幅に変更されました。どのような状況にあっても、熊大病院群卒後臨床研修プログラムが、熊本県の医師育成に貢献できるよう、努力してまいります。肥後医育振興会の皆様には、今後とも御支援、御指導をよろしくお願い申し上げます。

今もなお新型コロナウイルスの拡がり懸念される状況が続いております。皆様におかれましてはくれぐれもご自愛ください。一刻も早く終息することを願っております。

第十九回熊本大学医学部医学科医学教育FDワークショップを開催して

熊本大学医学部医学科長

尾池 雄一

熊本大学医学部医学科医学教育FDワークショップ（FDWS）は、医学教育に携わる大学教員の教育能力を高め、大学の組織的改革を目的として、二〇〇〇年に第一回が開催されて以来毎年開催されており、今回の開催が十九回となりました。

二〇一九年十一月十七日（日）に、熊本大学臨床医学教育研究センターにおいて開催され、教職員、研修医、学生、合計五〇名が参加しました。

過去のFDWSでは、熊本大学医学部医学科の学修成果、教育方法、学生の評価方法、診療参加型臨床実習の充実等についての議論がなされ、その成果は学修成果の策定、統合卒業試験の導入、臨床実習の充実等に繋がっています。また、二〇一七年度、二〇一八年度は「医学教育分野別評価受審に向けて」というテーマの下、本学の医学教育の特色や改善点についての議論を行い、自己点検評価書の作成を行いました。二〇一九年六月に

は、提出しました自己点検評価書をもとに、日本医学教育認証評価評議会（JACME）による医学教育分野別評価の実地調査が行われました。本学の医学教育の特色をご評価いただき、七年間の認証取得をいたしました一方で、様々な改善すべき点もご指摘いただきました。本学

は、今後特色を更に発展・充実させることはもちろん、指摘された点を速やかに改善していくことが求められています。早速本学では、カリキュラム、学生の評価、臨床実習など、医学教育の幾つかの要素について個別に議論する「分科会」を組織し議論を開始しています。

今回の医学教育FDWSでは、認証評価を踏まえ、本学の医学教育の様々な要素、問題点について確認し、本学医学部医学科の使命と学修成果、学修成果獲得の道筋について議論していただきました。まず、学外講師として、日本医学教育評価機構理事で本学での実地調査で主査をお務め頂きました奈良信雄先生にご来学いただき、医学教育認証制度の概略と現在の日本の医学教育、そして将来への方向性についてご講演いただきました。その後のグループワークでは、成果基盤型医学教育の基礎となる熊本大学医学部医学科の使命と学修成果の見直しを行って

いただきました。午後には、前述した分科会の中から「カリキュラム」「学生評価」「臨床実習」「基礎演習」「教員FD」の各分科会の委員長より議論内容を発表していただき、参加者からのご意見もいただきました。

今回のFDWSで交わされました議論が、本学の医学教育を改善し、優れた医師の育成として社会貢献につながるものと確信しています。最後ではありますが、大変ご多用の中、本ワークショップに参加していただきました教職員、研修医、学生の皆様に感謝申し上げますとともに、御支援をいただきました。肥後医育振興会に御礼申し上げます。

